

まちづくり協議会の新しい事業です

山北PR活動助成金交付事業を始めます



山北地区には赤カブや海の塩、アク笹巻といった「食の資源」や日本国、笹川流れ、棚田といった「自然資源」が数多くあります。これらの資源を都市部の人々に PR する活動の支援と団体の育成を図ることを目的に「山北 PR 活動助成金交付事業」を始めました。今回はその内容を紹介しします。

Q どんな事業なの？

A 村上市以外で開催される物産展等で、山北の産物等を販売、PR する際の交通費等をまちづくり協議会で助成し、多くの団体等に都市部で山北のPRをしていただきたいというものです。



Q 誰が助成を受けることができるの？

A 山北地区内の産物を製造、販売する農林漁業者や事業所等が連携して物産展等に出品する場合、又は商工会や農協と個人が連携して物産展に出品する場合、連携団体が助成を受けることができます。個人や農協などの団体が単独で物産展等に出品する場合は助成の対象とはなりません。

Q 助成の対象となる経費は？

A 駐車場使用料、旅費交通費（公共交通機関運賃、有料道路使用料）、車両借上料（レンタル）、燃料費（20 円/km）が助成の対象となります。ひとつの連携団体が総対象経費の 50%（限度額 75,000 円）の助成を受けることができます。

Q 申請方法、助成金の受取方法は？

A 連携団体の代表者が助成金交付申請書と実施計画書を提出し、物産展終了後実績報告書の提出により助成額を確定し、交付します。

申請を希望される方は事前にまちづくり協議会事務局（山北支所自治振興室）にお問い合わせください。

地域行事では子ども達にも役割を持たせて

子ども達に地域の一員として活躍してもらいましょう～企画部会～

まちづくり協議会の企画部会では、子ども達にも地域づくりに関心を持ってもらえるよう、さまざまな活動に参加してもらおう取り組みを進めています。

この時期は各集落で盆踊りなどの地域行事が行われると思いますが、ぜひ、子ども達にも役割を持たせてあげていただきたいと思ひます。子ども達も役割を持つことで責任感が生まれ、活躍の場が与えられることで地域の一員として必要とされているという喜びを感じることができるのではないのでしょうか。

小さい頃の思い出はいつまでも心の中に残るはずですよ。



編集後記

まちづくり協議会も 2 回目の夏を迎えました。少しずつですが、地域の皆さんと一緒に活動する機会が増えてきて、嬉しく思っています。

今号は年 1 回のカラー印刷でお届けします。お盆などで家族や親戚の皆さんも帰省されることと思ひますので、まちづくり協議会の活動に関心を持っていただくためにも、ぜひ、大勢の皆さんにこの通信を見ていただけるよう、ご紹介いただければと願っています。



さんぽくまちづくり通信

第 6 号

発行 山北地区まちづくり協議会

発行日 平成 25 年（2013 年）8 月 15 日

事務局 村上市 山北支所 地域振興課 自治振興室 (住所) 〒959-3993 新潟県村上市府屋 232 (TEL) 0254-77-3111 (FAX) 0254-77-2217 (E-mail) s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp



集落、そして山北地域を元気にするため、大勢の皆さんが参加・活動してくれています



“山北の元気”は…みんなの参加と笑顔から



山北地域をきれいに、そして来訪される皆さんを笑顔でお出迎えします



新潟市、台湾、アメリカから山北地域の生業を体験に来訪した皆さん

これからも楽しい活動を楽しみにしています

軽トラ市で地産地消を盛り上げましょう

無農薬の地元の新鮮野菜を提供する(株)グリーンシードから6月9日に商工会主催の「さんぽく軽トラ市」に参加した斎藤三和子さん(下大蔵集落)。



軽トラ市は、特産品や手づくり食材など点在售する「山北の味」を一堂に買うことができるのが魅力です。また、多くの方々に育てた野菜の真心を伝えることもでき、つながりもたくさんできて嬉しく思っています。野菜を作っている方々もぜひ一緒に参加してみませんか。



「さんぽく軽トラ市」は大勢の来場者で賑わいました

郷土の宝である美しい自然を守ろう

環境文化部会の委員として5月26日に山北地区小中学校連絡協議会と共催で「3校クリーン作戦」に参加した本間一良さん(桑川集落)。



中学生は小学生のお兄さんお姉さん役となり、海岸は大勢の力によりきれいになりました。郷土の美しい自然と住みよい環境を守ることは誰もが身近にできることです。子ども達との活動を通じて、そのことを再確認しました。



子ども達の汗できれいになった碇石海岸

地域の皆さんの笑顔が見たいから

ボランティア活動発展のため日々汗している山北ボランティア連絡協議会が6月9日に主催した「福祉まつり」に実行委員として参加した本間栄子さん(芦谷集落)。



今年は、まちづくり協議会の皆さんや夢21・さんぽく塾の若者の力も加わり、より賑やかな「福祉まつり」となりました。また、変わらず協力してくださる地域の皆さんの芸能披露は特に施設のお年寄りが大喜びでした。来年も皆さんの笑顔に会えるよう工夫していきたいと思っています。



「福祉まつり」で心と体の健康体操



支所職員へ懸命に聞き取り調査

山北中学校2年生が「地域づくり事業」を提案

4名が山北支所で職場体験を行い、5月16日に「山北地域が元気になるためにはどうしたらよいか」支所職員に聞き取りを行い、立案した企画を職員にプレゼンテーションしました。



加藤麻由子さん



平方未滞さん



富樫瑠音さん



小田みずほさん

「山北地域が元気になってなんだろう」。中学生だからできる地域の人々が喜び、楽しむことから考えました。地域にはお年寄りが多いので、たくさん交流を持てる「中学生と地域の茶の間」や「楽しく交差点」ができればいいと思います。



碇石海岸を撮影する村上桜ヶ丘高校写真部

地域の魅力再発見のお手伝い如果能ければ

村上桜ヶ丘高校写真部の生徒が高校生の視点で山北地域を撮影し、地域の魅力を再発見しようという取り組みに協力いただいている写真部顧問の小坂正一さん(朝日地区猿沢集落)。



地域の皆さんとふれあいながら撮影ができることは生徒たちのコミュニケーション能力を高めるためにも大変有意義な機会です。生徒たちとの交流も含め、撮影した写真が地域の皆さんのお役にたてればと考えています。

【山北の暮らし③「焼畑(やきはた)」】

山と共生し、先人の知恵を受継ぐ農耕

焼畑は耕地の少ない山間地で山を焼き、耕地化して食糧となる穀物類などを栽培する農耕法で、昭和30年代頃までは全国各地で行われていましたが、今ではほとんどなくなってしまいました。

山北地域では「ナギノ」とも呼ばれ、現在でもこの時期になると山焼きをして焼畑で「赤かぶ」を栽培しています。

全国的にも珍しくなってしまった焼畑が山北地域に残っているのは他の地域と違って食糧の栽培を主たる目的としたものではなく、杉の植林のための地ごしらえのために行われてきたことが大きな要因のようです。

しかし、近年では木材価格の低迷などにより木を伐採することも少なくなり、焼畑をする場所を確保するのも大変になってきているようですが、夏の夜空を焦がすような山焼きは山北地域の夏の風物でもあります。

これからも山北地域の生業として受継がれていくことを願いたいものです。



燃え上がる炎の中での山焼き作業

《協議会の今後の活動予定》

- 8月30日 集落の元気づくり支援事業 追加要望申請期限
- 8月31日 視察研修事業
- 10月9日 役員会
- 10月9日 集落の元気づくり支援事業 助成金等審査会

※日程等は変更になる場合があります。